

表 - 1 今後の河川水質管理の指標項目（案）

河川水質管理の視点	河川水質の確保すべき機能		確保すべき機能を表す項目	指標項目の分類				今後の河川水質管理指標項目(案)				
				住民との協働に優れた項目	感覚指標に係る水質項目	機能に関して指標性のある水質項目	洪水時調査の必要な項目	住民との協働による測定項目	河川等管理者による測定項目			
人と河川の豊かな触れ合いの確保	快適性 (利用にあたって快適であること)	水域全体のきれいさ	ゴミの量	ゴミの量	-	-	-	ゴミの量				
		水の透明感 (水のきれいさ)	透視度、SS、濁度、水の色、泡、(BOD(簡易COD))	透視度、水の色、泡、(簡易COD)	-	透視度、SS、濁度 (BOD)	-			透視度、 (簡易COD)	SS、濁度、(BOD)	
		川に入ったときの 快適性	川底の 感触	川底の感触、(SS)、(濁度)、 (BOD(簡易COD))、 (T-N)、(T-P)、(クロロフィルa)	川底の感触、 (簡易COD)	(BOD)、(T-N)、(T-P)、 (クロロフィルa)	(SS)、(濁度)					-
			水に触れた 感覚	水温、粘性	水温	-	水温、粘性			-		
	臭い	水の臭い、臭気、(臭気度)、 (DO)、(BOD(簡易COD))	水の臭い、臭気 (簡易DO)、(簡易COD)	(DO)、(BOD)	(臭気度)	-	水の臭い、 (簡易DO)、 (簡易COD)	(DO)、(BOD)				
安全性 (利用にあたって安全であること)	衛生学的安全性 (触れる、誤飲の安全性)	糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌、 ダイオキシン類、環境ホルモン	-	-	糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌、 ダイオキシン類、 環境ホルモン	-	糞便性大腸菌群数					
豊かな生態系の確保	生息、生育、 繁殖	呼吸	DO、SS、(BOD(簡易COD))	簡易DO、(簡易COD)	-	DO、(BOD)	DO、SS	簡易DO、 (簡易COD)	DO 、(BOD)、SS			
		毒性	NH ₄ -N、Zn、ダイオキシン類、 環境ホルモン	簡易NH ₄ -N	-	NH ₄ -N、Zn、 ダイオキシン類、 環境ホルモン	NH ₄ -N	簡易NH ₄ -N	NH₄-N			
		生物の生息	水生生物の生息、(水温)、 (pH)、(BOD(簡易COD)) (T-N)、(T-P)	水生生物の生息、 (水温)、(簡易pH)、 (簡易COD)	-	(BOD)、(T-N)、(T-P)	-	水生生物の生息 (水温)、(簡易pH)、 (簡易COD)	スコア法 (pH)、(BOD)、 (T-N)、(T-P)			
利用しやすい 水質の確保	安全性	毒性 (消毒副生成物 含む)	(TOC)、(BOD)、(COD)、(SS)、 トリハロメタン生成能(NH ₄ -N)、 健康項目	-	-	(TOC)、(BOD)、(COD)、 (SS)、トリハロメタン生成能、 (NH ₄ -N)、健康項目	(TOC)、 (トリハロメタン生成能)、 (NH ₄ -N)	トリハロメタン生成能、(NH₄-N) (TOC)	糞便性大腸菌群数			
		病原性微生物	原虫類、ウイルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌	-	-	原虫類、ウイルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌	原虫類、ウイルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌					
	快適性	臭い	2-MIB、ジオスミン、 臭気度、(T-N)、(T-P)	-	-	2-MIB、ジオスミン、 臭気度、(T-N)、(T-P)	2-MIB、ジオスミン			2-MIB、ジオスミン		
		味覚	異臭味、(TOC)、(COD)	-	-	(TOC)、(COD)	(TOC)、(COD)					
維持管理性	浄化処理の 維持管理性	pH、SS、濁度、NH ₄ -N	-	-	pH、SS、濁度、NH ₄ -N	pH、SS、濁度、NH ₄ -N	pH、SS、濁度、NH ₄ -N					
下流域や滞留 水域に影響の 少ない水質の 確保	下流域の富栄養化や閉鎖性水域(ダム、湖沼、湾)の富栄養化への影響が少ない水質レベルであること。		(T-N)、(T-P)、(簡易PO ₄)、 クロロフィルa、(*ケイ酸)	(簡易PO ₄)	-	(T-N)、(T-P)、 クロロフィルa	(T-N)、(T-P)	(簡易PO ₄)	(T-N)、(T-P)			
河川の基本的特徴の表現			水温、流量、流速、水位 BOD(簡易COD)、SS、濁度、pH、 水生生物の生息、(*フレッシュ度)	水温、簡易COD、 簡易pH、 (*フレッシュ度)	-	BOD、SS、濁度、pH 流量、流速、水位 水生生物の生息	SS、濁度	水温、簡易pH、 簡易COD、 流れの状況	BOD、SS、濁度、pH、 流量、流速、水位			

*1今後の調査・研究が必要である項目

*2この項目は情報提供のみに限られる。「フレッシュ度」は仮称であり、今後変更される可能性がある。

上記の視点に対して、水質以外の項目として川への近づき易さや、河道形態などが影響してくる。そのため、水質管理を行う上では、これらを考慮して検討を行う必要がある。現在国土交通省で設置している水質自動監視装置では、水温、pH、DO、濁度、COD、NH₄-N、T-N、T-P等の測定を行っている。また、水位観測所において水位の観測を行っている。

表の見方
・()内の指標項目は、今後のデータの蓄積を行い、水質指標として継続すべきか、あるいは他の項目で代替すべきかを判断するために、調査を行う項目
・太字は水質管理上重点的に評価を行う項目
・下線は特に指標性の高い項目を表す